

令和4年度 浜松市立河輪小学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果及び考察

別紙「令和4年度浜松市立河輪小学校 学校評価アンケートに関する自己評価」のとおり

2 学校関係者評価

2月22日(水)に開催した学校運営協議会において、学校に関するアンケート結果をもとに、令和4年度の学校目標・グランドデザインの成果を検証し、学校としての自己評価結果及び考察、来年度に向けての改善案について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- 設問1・2・3の考察・改善案「個別最適な学びと協働的な学びのベストミックスを進めていく。」について、「子供たちが熱心に学習に取り組んでいる様子は授業参観からも伺える。一人一人に寄り添った教育が進められていくことは大事なことだ。協働的な学びを進めていく中で、意見が言えない子がいたり、子供たちが一方的な関係性になったりしないように、教員がしっかりと支援をしながら見守ってほしい。」との意見があった。
- 設問4の考察・改善案「多くの子供たちにとって楽しいと実感できている」について、「子供たちにとって、学校の何が楽しいのか、詳細なアンケートにしてもいいのではないか。」や「多くの子供たちにとって学校が楽しいと感じられる場所であって良かった。しかし、1人でも学校が辛いと思える子供がいるのであれば、学校として手立てをうち、0人にしてもらいたい。」との意見があった。また、「子供たちの生きる力を育成していきたい。」について、「生きる力の定義を明確にしてもらいたい。」との意見があった。
- 設問8の考察・改善案「日常的に外遊びをできる機会を、子供たちが主体となって活動する委員会活動の中で進めていきたい。」について、「学校から帰ると、安心して外遊びができる場所は少なくなっている。学校生活の中で大いに外遊びの機会を増やしてあげてほしい。」との意見があった。
- 設問11の考察・改善案「課題を自分なりに解決していくことを通して、子供たちが課題に進んで挑戦できるように取り組んでいきたい。」については、「子供たちの課題設定は、的確に設定できるのか。課題設定が上手いかなければ、子供の学びにつながらない。教員がしっかりと一人一人の課題設定が適当であるか確認できるとよい。」との意見があった。
- 設問12の考察・改善案「家庭や地域と連携する機会を多くしていく中で、学校の教育方針を周知していきたい。」については、「コロナ禍において、地域や保護者が学校に来る機会が減っていた。学校公開などで学校の様子を見ると、教員も子供たちも同じ方向を向いて進んでいるのがよくわかる。地域や保護者が学校に来られる機会を増やして、もっと学校の様子を見られるようにしてもらいたい。」との意見があった。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- 個別最適な学びと協働的な学びのベストミックスを進めていくために、ICT、タブレットを今まで以上に活用していく。協働的な学びを推進するために、オクリンクやジャムボード等のアプリの効果的な活用や教員のファシリテーション能力の向上に資する研修等を取り入れていく。
- 「生きる力」の定義については、国や市の政策に加え、学校としての定義を明確にし、ランドデザインに反映させ、あらゆる機会を活用し地域や保護者の方に周知していく。
- 課題設定については、キャリアパスポートを改善し、長期的目標、中期的目標、短期的目標を設定する中で、個人として、学級として、学校としてのように、段階を踏まえた課題を考える機会を設けていく。また、教員や保護者とも相談しながら進めていくように取り組んでいく。
- 学校に来られる機会を増やしていくために、行事等への参観だけでなく、日頃から学校ボランティアなどの機会を設定し、地域や保護者の方とともに連携しながら子供たちを育てていく環境をつくっていく。コミュニティー・スクールを推進し、総合的な学習を中心に地域や保護者の方に講師として参画してもらう。学校ホームページや学校Blog、さくら連絡網等を利用して情報発信を強化していく。